

## 大久保利通の年譜（各種書物・資料による）

赤：大きな節目、紫：天皇・朝廷との関わり 緑：統治のかたち

- 1830 天保元 8月10日 出生 薩摩藩主大久保利世と皆吉ふく子の長男として  
鹿兒島の高麗町に生まれ、加治屋町へと移る
- 1846 弘化3 藩の記録所書役助となる
- 1850 嘉永3 4月 父利世が、お家騒動（高崎くずれ）に連座して鬼界島へ遠島、利通も免職謹慎  
この頃、のちの「精忠組」の結集が始まる
- 1850～1852 貧困時代
- 1851 嘉永4 2月 斉彬藩主となる
- 1853 嘉永6 5月 記録所に復職 蔵役 6月 ペリー来航  
西郷、抜擢を受ける
- 1857 安政4 藩政改革
- 10月 西郷とともに徒目付となる
- 12月 早崎ます子と結婚する
- 1858 安政5 7月 斉彬死去  
7月 将軍家定死去  
9月 安政の大獄  
10月 将軍家茂となる  
12月 西郷遠島
- 1859 安政6 10月 吉田松陰死罪
- 11月 仲間のリーダーとして突出を計画  
藩主に諭され中止。「精忠組」と称するようになる
- 1860 万延元 3月 久光と初会見 1月 咸臨丸渡米  
3月 桜田門の変
- 勘定方小頭になる
- 1861 文久元 11月 御小納戸に異例の昇進 12月 和宮・家茂 婚儀
- 公武合体運動本格化
- 1862 文久2 1月 初めて上京、近衛家に公武合体運動への協力を求める。  
3月 久光と共に京都へ 4月 久光、西郷に激怒  
寺田屋事件  
薩摩攘夷派9名斬殺
- 攘夷派との離反、公武合体運動
- 5月 初めて岩倉具視と会う。  
御小納戸頭取となる。  
公家との接触、説得
- 6月 大原勅使、久光と共に江戸へ

幕政改革に奔走——幕閣、雄藩との接触、説得

		7月	一橋慶喜將軍後見職、 松平慶永政事総裁職へ
		8月	生麦事件 京都 攘夷派優勢 公武合体色褪せる
	9月		久光・大久保、薩摩へ帰る
		9月	公武合体派失脚 岩倉具視 洛北へ
			大久保、御用取次見習へ 異例中の異例出世
1863	文久3	1月	將軍上洛 不可運動 失敗
		2月	大久保 御側役・御小納戸兼任
		3月	攘夷祈願 賀茂行幸 朝廷と幕府位置逆転
		4月	幕府 尊攘派に屈し 5月10日攘夷決行決める
		5月	馬関戦争
	6月		攘夷派公家抑圧の勅命 大久保無視一醒めた勅命観
		7月	薩英戦争 開国論薩摩に根を下ろす 精忠組力増す
	8月		8月18日の政変（文久の政変） 尊攘派公家追放 薩摩、会津と組む 朝廷、幕府とも権威落ちる 薩英接近
	9月		久光上京
1864	元治元		
		1月	参与會議開催・解体 雄藩対幕府分裂 慶喜、久光を嫌い朝廷と直結
		2月	西郷、島から帰る
		4月	公武合体 挙国一致ではない
		7月	池田屋事件 禁門の変 久坂玄瑞、真木和泉死去 第一次長州戦争
		8月	長州4国連合艦隊に敗戦
		9月	勝、西郷会談 西郷 長州強硬策撤回 慶喜、長州征討勅許を強要
			大久保藩政改革 留学生15名派遣 (出発は翌年1月)
			朝廷を見限る
	9月		大久保「非議の勅命は勅命に非ず」「朝廷これ限り」 天皇・朝廷、將軍・幕府・慶喜を、強烈に批判する

12月 西郷、高杉、山県を説得

1865 慶応元 5月～9月 長州再征反対運動展開 7月 グラバーから銃器購入長州へ  
9月 長州再征勅許  
岩倉、対慶喜、対朝廷、対孝明天皇 批判  
1866 慶応2 5月 大久保 老中板倉勝清に長州出兵拒否を通告 1月 薩長盟約  
6月 幕長戦争  
7月 将軍家茂逝去  
8月 慶喜、自ら始めた戦争中止  
12月 慶喜 将軍職へ  
12月 孝明天皇逝去  
1867 慶応3 1月 新天皇即位 14才2ヶ月  
5月 四侯会議  
兵庫開港 四侯慶喜に賛成

此の頃大久保と岩倉深い関係

朝議で四侯との約束・長州寛典処分守らず 大久保、抗議

長州と王政復古クーデター計画開始

6月 薩土盟約 新政府創設  
土佐の建白書 将軍職触れず  
藩兵上京せず 盟約破棄  
9月 長州と出兵協定、芸州参加  
10月14日 慶喜 大政奉還  
24日 将軍職辞する

10月14日 「討幕の密勅」 = 「正義の勅」

大久保、王政復古運動

岩倉、大久保、品川「錦の御旗」作成

12月9日 王政復古クーデターの断行を奏上  
新政府 総裁・議定・参与  
小御所会議開催 将軍職廃止、辞官・納地を決める  
10日 慶喜、将軍職廃止、辞官・納地を承諾  
12日 大久保 参与就任  
新政府ぐらつく。巻き返し運動で薩摩孤立

1868 明治元

1月3日 鳥羽、伏見の戦い  
7日 慶喜追討令  
1月17日 徴士・内閣事務係 1月 三職七科 最初の官制  
19日 大阪遷都を建議  
2月 朝廷改革意見を岩倉へ  
3月 天皇五ヶ条のご誓文を誓う  
4月9日 初めて天皇と面会する 身に余る光栄と感涙する

	21日	政体書公布 天皇親政宣言	
	9月	木戸と版籍奉還を協議する	
1869 明治2			9月 東京行幸決まる 10月 東京着 12月京都へ 1月 版籍奉還 薩長土肥が上表 3月 東京へ再幸 東京城を「皇城」とする 4月 政体書官制 5月 戊辰戦争終わる
	5月	官吏の公選 輔相1、議定3、参与6 三条と大久保が49票で最高得票 大久保、参与となる	
	6月		版籍奉還実施
	7月	官制改革 2官：神祇官、太政官 6省：民部、大蔵、兵部、刑部、宮内、外務 大久保、参議となる	
			8月 民部、大蔵合併
	9月	賞典禄1800石賜る	
1870 明治3	1月	久光に政府協力を頼むが失敗する	
			7月 民部、大蔵分離
	9月	藩制を布告 郡県制へ近づける	
	10月	朝廷の改革 女官排除ほか 政府の改革 冗官の淘汰 官員 民部・大蔵790人が654人へ	
1871 明治4	12月	政府の強化、改革のため西郷、久光に協力求める 長州・土佐も協力体制 制度、人事の改革難航	
			1月 薩長土三藩提携成立 2月 薩長土より親兵徴集
	4～6月	政体改革案 木戸とまとまらず	
	6月	大久保、参議辞任、西郷、木戸参議就任 大久保大蔵郷に	
			7月 廃藩置県決行 封建制の廃止と中央集権化
		<u>明治集権国家の成立 太政官制度（明治18年まで続く）</u>	
		大久保、大蔵卿に	
	11月	岩倉使節団出発 大久保副使	
明治5年	3月～5月	委任状を得るため帰国 留守部隊による新政策実施 土地永代売買禁止、学制頒布、新橋横浜間鉄道、 太陽暦、徴兵令、地租条例	
1873 明治6	5月	帰国	
	7月	地租改正	
	10月12日	大久保参議に	
	10月14日	征韓論争 閣議で西郷の朝鮮使節派遣に反対する	

- 15日 閣議で西郷の派遣が決定される
- 17日 参議の辞表を提出
- 19日 宮中工作
- 24日 天皇が西郷の朝鮮使節派遣延期の裁断をくだす 西郷辞任
- 25日 板垣・江藤・副島・後藤辞任
- 11月 内務省設立 大久保内務卿就任 殖産興業、警察行政 戸籍、郵便運輸、土木  
「立憲政体に関する意見」
- 12月 秩禄公債
- 1874 明治7 1月 「内務省及事務章程」公布
- 1月 民選議員設立建白
- 2月 佐賀の乱
- 5月 台湾出兵
- 10月 日清講和交渉終結
- 1875 明治8 2月 大阪会議 木戸・板垣と改革意見一致
- 4月 漸次立憲政体を立てるとの詔書  
地租改正事務局総裁
- 6月 讒謗律、新聞紙条例
- 1876 明治9 4月 明治天皇、大久保邸へ
- 3月 廢刀令
- 8月 金禄公債発行条例
- 5月 東北巡幸の先発
- 1877 明治10 10月 神風連、秋月、萩の乱
- 1月 地租を2, 5%に下げる  
行政改革
- 1月 鹿兒島、私学党挙兵
- 8月 内国勸業博覧会開催
- 9月 西郷自刃
- 1878 明治11 3月 安積疏水建議
- 4月 地方官会議 三新法を審議
- 5月14日 大久保暗殺される
- .....
- 1881 明治14 4月 農商務省設立  
明治14年の政変 大隈閣外へ
- 1883 明治16 12月 山縣有朋内務卿就任